

平成24年3月8日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア イ ス タ イ ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 吉 松 徹 郎
(コード番号：3660 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長 菅 原 敬
(TEL. 03-5785-8902)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成24年3月8日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連 結】

(単位：百万円・%)

項目	平成24年6月期 (予想)			平成23年6月期 (実績)		平成24年6月期 第2四半期累計期間 (実績)	
		構成比	前年比		構成比		構成比
売 上 高	4,313	100.0	112.6	3,832	100.0	2,153	100.0
営 業 利 益	510	11.8	119.3	427	11.2	353	16.4
経 常 利 益	506	11.7	117.2	432	11.3	365	17.0
当 期 (四 半 期) 純 利 益	310	7.2	119.5	259	6.8	225	10.5
1 株 当 た り 当 期 (四 半 期) 純 利 益	54円49銭			4,630円17銭 (46円30銭)		40円68銭	
1 株 当 た り 配 当 金	0円00銭			0円00銭		0円00銭	

- (注) 1. 平成23年6月期(実績)の1株当たり当期純利益及び平成24年6月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり四半期純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 当社は平成23年12月16日付で株式1株につき100株の分割を行っております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たり指標の推移は()内に記載しております。
3. 平成24年6月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数450,000株を含めた予定期中平均株式数により算出しております。

以 上

平成24年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年3月8日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東
 コード番号 3660 URL http://www.istyle.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 徹郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 菅原 敬 TEL 03-5785-8902
 四半期報告書提出予定日 平成一年一月一日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年6月期第2四半期の連結業績(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第2四半期	2,153	—	353	—	365	—	225	—
23年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年6月期第2四半期 225百万円(—%) 23年6月期第2四半期 1百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年6月期第2四半期	40	68	—	—
23年6月期第2四半期	—	—	—	—

- (注) 1. 当社は、平成23年12月16日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり四半期純利益は当該分割調整後の数値を記載しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株引受権及び新株予約権の残高はありますが、当社株式は当第2四半期連結累計期間において非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
3. 平成23年6月期第2四半期は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、同期間との比較は行っておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年6月期第2四半期	2,582		1,740		67.4
23年6月期	2,378		1,514		63.7

(参考) 自己資本 24年6月期第2四半期 1,740百万円 23年6月期 1,514百万円

2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末	合計
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年6月期	—	—	0	00	—	—	0	00
24年6月期	—	—	0	00	—	—	0	00
24年6月期(予想)	—	—	—	—	—	—	0	00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年6月期の連結業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	4,313	12.6	510	19.3	506	17.2	310	19.5	54	49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の移動) : 無

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計処理の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年6月期2Q	5,685,000株	23年6月期	5,685,000株
② 期末自己株式数	24年6月期2Q	133,300株	23年6月期	133,300株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年6月期2Q	5,551,700株	23年6月期2Q	一株

当社は、平成23年12月16日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- 平成23年12月16日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	連結経営成績に関する定性的情報	2
(2)	連結財政状態に関する定性的情報	3
(3)	連結業績予想に関する定性的情報	4
(4)	中長期的な会社の経営戦略	5
2.	サマリー情報（その他）に関する事項	7
(1)	当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2)	四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3)	会計処理の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3.	四半期連結財務諸表	8
(1)	四半期連結貸借対照表	8
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4)	継続企業の前提に関する注記	12
(5)	セグメント情報等	12
(6)	株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により停滞していた生産活動が回復に向かいつつあるものの、電力供給不足や原子力災害の影響に加え、円高・株安の進行、欧州の政府債務危機など、国内外とも懸念すべき問題も多く、日本経済の先行きは不透明な状況で推移しました。

そのような状況下で、わが国のインターネットの利用状況は、スマートフォンや多機能端末等の普及が始まったことで、日常生活におけるインターネットの影響力がより一層高まっております。特に携帯電話でのインターネット利用に関しては、平成23年11月末現在、携帯電話契約数は1億2千6百万件、そのうち高速データ通信が可能な第三代携帯電話契約数は1億2千1百万件に達し、全端末のうち約96%は高速データ通信が可能な状況となっております（電気通信事業者協会調べ）。スマートフォンに関しては、平成23年7月～9月における国内出荷台数が530万台（前年同期比243%増）となっており、出荷台数の大幅な増加が窺えます（IDC Japan株式会社調べ）。

このような環境のもと、「@cosme」のサイト規模は、当第2四半期連結累計期間末現在、総会員数180万人、月間ページビュー約2億5百万ページビュー（以下、「PV」という。）、累計クチコミ件数944万件となりました。メディア事業では、ブランディング型広告サービス、データ利用サービス、リサーチアンドコンサルティングサービス、アフィリエイト広告サービス等の販売が好調に推移いたしました。また、Facebook, Inc. が運営するFacebook、及び株式会社ミクシィが運営するmixiにおいて、公式ページを開設する等、引き続きユーザー数の増加に向けた取組みを推進していくとともに、平成23年12月に発表した「2011年@cosmeベストコスメ大賞」では、「@cosme store」において記念イベントを実施した他、ツイッターやFacebook、「@BEAUTIST（アットビューティスト）」などの各種SNSとの連動、日本語、中国語、英語の3ヶ国語による情報配信を行うなど、より幅広いユーザーの興味に応える取組みを実施して参りました。

以上の結果、当社グループの売上高は2,153,812千円となりました。利益面につきましては、売上原価や販売費及び一般管理費の抑制により収益性の向上に努めて参りました結果、営業利益353,411千円、経常利益365,396千円となり、四半期純利益225,819千円となりました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①メディア事業

当第2四半期累計期間においては、特にブランディング型広告サービス、データ利用サービス、リサーチアンドコンサルティングサービス、アフィリエイト広告サービス等の販売が順調に推移いたしました。また、「@cosme」においては、Facebook、mixiの公式ページ開設による外部流入増加等によって、月間PV数は2億PVを上回る数値で推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,238,488千円、営業利益305,976千円となりました。

②EC事業

当第2四半期累計期間においては、平成23年6月に開設した「cosme.com」のスマートフォンサイトからの集客が順調に推移いたしました。また、楽天を中心としたショッピングモール経由の販売が順調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は216,829千円、営業利益15,700千円となりました。

③店舗事業

当第2四半期累計期間においては、各店において、7月・9月・11月・12月の連休中のセールが好評であり、関東エリアの店舗を中心に過去最高の月間売上高を計上したこと等、順調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は698,494千円、営業利益20,016千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の額は、前連結会計年度末に比べ204,149千円増加し2,582,256千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ136,518千円増加し1,998,293千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が59,471千円増加したこと、並びに現金及び預金が72,977千円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ67,630千円増加し583,963千円となりました。これは主に、無形固定資産においてソフトウェア仮勘定及びソフトウェアの増加があったこと等によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ21,669千円減少し841,984千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ8,561千円増加し691,809千円となりました。これは主に、未払法人税等が40,369千円減少したものの、買掛金が14,152千円増加したこと、及び1年内返済予定の長期借入金が31,241千円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ30,231千円減少し150,174千円となりました。これは主に、長期借入金が27,700千円減少したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の額は、前連結会計年度末に比べ225,819千円増加し1,740,272千円となりました。これは、四半期純利益の計上により、利益剰余金が225,819千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末より72,977千円増加し、1,203,325千円となりました。区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は190,525千円であります。この主な要因は、売上債権の増加59,471千円、法人税等の支払額184,741千円があったものの、税金等調整前四半期純利益365,396千円、減価償却費86,576千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用された資金は120,763千円であります。この主な要因は、無形固定資産の取得による支出121,954千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は3,214千円であります。この主な要因は、長期借入金の返済による支出46,459千円があったものの、長期借入れによる収入50,000千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは、『生活者中心の市場の創造』のために、今後において、化粧品・美容の統合プラットフォームを構築することにより、各事業の収益機会の強化を図るとともに、当該プラットフォームの海外展開を進めていくことによって、更なる収益の拡大を図って参ります。

セグメント別の取組みでは、メディア事業において、ネット広告の増加を背景に、他媒体（特に雑誌、テレビ）のシェアを獲得しつつ、且つ当社グループのブランド力・企画力を活かして化粧品業界のネット広告シェアを高めることを想定しております。

EC事業においては、取扱商品の増加、「@cosme」から「cosme.com」への誘導強化、当社グループの認知度向上とともに購買数は継続的に増加するものと想定しております。また、大手企業のEC市場への参入により市場自体の拡大が見込まれ、その結果、一人当たりの平均購買数や単価が上昇することを想定しております。

店舗事業については、微増ながらも拡大を続けている店頭でのプロモーション収益を拡大させて参ります。費用面に関しては、上場関連費用の発生に加え、来期以降における収益拡大のために必要な新規サービスの開発に係る費用及び人材関連費用の増加等を見込んでおります。

このような外部環境のもと、上記の各種施策を講じること等により、次期（平成24年6月期）の業績見通しにつきましては、売上高4,313百万円、営業利益510百万円、経常利益506百万円、当期純利益310百万円を予想しております。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合

理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(4) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、「@cosme経済圏（注1）」の構築を経営戦略の柱に据え、①API（注2）サービスの拡充、②ポイント共通化及びプレミアム会員サービスの拡充、③海外展開の3つを推進して参ります。

① APIサービスの拡充

これまで外部に提供していなかった「@cosme」のデータベースAPIを開放し、外部のサイト運営者が「@cosme」のデータを活用できるようにすることにより、クライアント単価の向上及び新規顧客の獲得を目指します。

具体的には、当社が所有する「@cosme」のデータベースAPIをクライアント企業に有償提供し、データベースAPIの利用料を収受するサービスの拡充を計画しております。APIサービスを利用するクライアント企業は、自社が運営するECサイトやホームページ上で、当社が提供する各種データを、目的や対象商品のターゲティングに応じて、表示条件や表示項目をカスタマイズして活用することが可能となります。当社は、データベースAPIの開放を行うことによって、他社サイト経由のユーザーの流入や他社サイトとの連携による収益機会の獲得に向けた取組みを推進して参ります。

② ポイント共通化及びプレミアム会員サービスの拡充

「@cosme」におけるビューティーポイント（「@cosme」のページ閲覧に応じて付与されるポイント）と、「cosme.com」及び「@cosme store」におけるショッピングポイント（商品を購入する際に活用できる商品値引きポイント）の交換や相互利用を推進することで、それぞれのプラットフォームのつながりを促進し、ポイント連携の強化、ユーザー回遊の促進を目指します。

また、各種プレゼント企画への応募やショッピングポイントの利用等について、プレミアム会員に対するポイント優遇の実施等、プレミアム会員に対する各種リワード（注3）の提供により、プレミアム会員の獲得を推進し、プレミアム会員サービスを新たな収益基盤として確立させるべく、取り組んで参ります。

③ 海外展開

当社が日本で築いた美容業界のプラットフォームを、美容関連市場の成長が見込まれる国が多く存在し、日本文化・製品への関心が高いアジア圏に展開することによって、アジア最大の美容業界のプラットフォームを構築し、急速に台頭するアジアの化粧品・美容市場への進出を目指します。

(注) 1 「@cosme経済圏」とは、「@cosme」が日本最大の美容系総合ポータルサイトであることのブランド力を活かし、「広告を中心としたEC・店舗展開」、「化粧品・美容業界に特化した垂直統合型のビジネスモデル」、「ネットとリアルを融合させた販売基盤」を集約し、3事業の連携強化及びサービスの質の向上を図ることにより、消費者における各ブランドの商品認知から商品購入までのバリューチェーンの全てを、当社グループの提供するサービス内で循環させる経済システムを指します。

2 API (Application Program Interface) とは、企業のウェブサイトにある商品情報やデータベースを、外部からアクセスして利用できるよう公開されたものをいいます。

3 リワードとは、商品やサービスを購入するたびに得られる何らかの価値を指し、商品購入時の値引きや無料商品（自社の

ものに限らず、顧客を獲得したいパートナー企業の商品・サービスを含む)等がこれにあたります。顧客は、商品やサービスの購入時にクーポンやポイント等を貯めることにより、各種リワードを得ることが可能となります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計処理の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

当第2四半期連結会計期間において株式分割を行いました。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,130,348	1,203,325
受取手形及び売掛金	518,495	577,966
商品	156,911	168,125
その他	58,217	51,998
貸倒引当金	△2,198	△3,123
流動資産合計	1,861,774	1,998,293
固定資産		
有形固定資産	97,251	88,194
無形固定資産		
ソフトウェア	219,037	220,138
その他	8,311	65,722
無形固定資産合計	227,349	285,860
投資その他の資産	191,731	209,908
固定資産合計	516,332	583,963
資産合計	2,378,107	2,582,256

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	118,319	132,472
1年内返済予定の長期借入金	104,159	135,400
未払法人税等	189,597	149,228
賞与引当金	4,874	23,200
ポイント引当金	8,631	8,886
その他	257,666	242,622
流動負債合計	683,248	691,809
固定負債		
長期借入金	171,160	143,460
その他	9,245	6,714
固定負債合計	180,405	150,174
負債合計	863,654	841,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	749,758	749,758
資本剰余金	701,855	701,855
利益剰余金	116,159	341,978
自己株式	△53,320	△53,320
株主資本合計	1,514,453	1,740,272
純資産合計	1,514,453	1,740,272
負債純資産合計	2,378,107	2,582,256

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	
売上高	2,153,812
売上原価	714,443
売上総利益	1,439,368
販売費及び一般管理費	1,085,957
営業利益	353,411
営業外収益	
受取利息	114
持分法による投資利益	12,061
その他	1,824
営業外収益合計	14,000
営業外費用	
支払利息	2,016
営業外費用合計	2,016
経常利益	365,396
税金等調整前四半期純利益	365,396
法人税、住民税及び事業税	144,344
法人税等調整額	△4,767
法人税等合計	139,576
四半期純利益	225,819

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	
四半期純利益	225,819
四半期包括利益	225,819
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	225,819

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	365,396
減価償却費	86,576
貸倒引当金の増減額(△は減少)	924
賞与引当金の増減額(△は減少)	18,326
ポイント引当金の増減額(△は減少)	254
受取利息	△114
支払利息	2,016
持分法による投資損益(△は益)	△12,061
売上債権の増減額(△は増加)	△59,471
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,319
仕入債務の増減額(△は減少)	14,152
その他	△27,139
小計	377,540
利息及び配当金の受取額	114
利息の支払額	△2,387
法人税等の支払額	△184,741
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,525
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△806
無形固定資産の取得による支出	△121,954
その他	1,998
投資活動によるキャッシュ・フロー	△120,763
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	50,000
長期借入金の返済による支出	△46,459
その他	△326
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,214
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	72,977
現金及び現金同等物の期首残高	1,130,348
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,203,325

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (注) 1 (千円)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2 (千円)
	メディア事業 (千円)	EC事業 (千円)	店舗事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	1,238,488	216,829	698,494	2,153,812	—	2,153,812
セグメント間の内部売上高又は振替高	267	2,485	3,701	6,455	△6,455	—
計	1,238,756	219,315	702,195	2,160,267	△6,455	2,153,812
セグメント利益	305,976	15,700	20,016	341,693	11,718	353,411

(注) 1 セグメント利益の調整額 11,718千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。